



学校だより 第3号

糸満市立三和中学校
校長 仲程 俊浩
令和6年6月7日発行
糸満市字真壁519番地
098-997-2104

《教育目標》

ふるさと三和を愛し 主体的に学び続け お互いを尊重し合う 心身ともに健やかな生徒

相手に迫る丁寧な「挨拶」

6月……。令和6年も半分に差し掛かりました。6か月後は「大晦日」と言われてもパッとしませんが、時は確実に過ぎ、三和中生も日々成長していく……。これからも生徒の皆さんが自分の成長を実感し、そして笑顔で学校生活を送れるよう校長として頑張っ

て参ります。

さて、私はこの2か月あまり、正門前で生徒の登校の様子を見守ってきました。徒歩で登校する生徒、自転車登校の生徒、保護者の車を利用する生徒……。様々ですが、すべての生徒に共通していることがあります。それは、相手に迫る丁寧な挨拶です。私（校長）の挨拶を受けてから挨拶を返すのではなく、先ずは自分から挨拶する生徒、語先後礼、つまり「おはようございます！」と発してからお辞儀・会釈をする生徒、言葉と動作を一緒にせず、立ち止まって正対し目を合わせて挨拶する生徒が本当に沢山います。

“あいさつ”は、「(あ)明るく、(い)いつも、(さ)先に、(つ)続けて」などと言われるように、人間関係や意思疎通における基本的な行為です。そして、本校の校訓である「和の心」を決定づける重要なものと、私は考えています。

全校生徒 190 名、まさに本校の誇りです。

私たち大人も心を開いて相手に迫る挨拶を心掛け、率先して行い、子どもたちの良き模範者でありたいものです。

三和中学校が、そしてこの三和中学校区がこれからも挨拶あふれるコミュニティとなることを心より願っています。

「温故知新」

～コロナ発生から3年余りが経ちました～

校長室に、ある扁額が掲げられています。（歴代のある校長先生が掲げたものと思われます）。その額には「温故知新」という言葉が書かれています（下写真）。古い教えから新しい知識を学ぶことを意味する言葉です。

昨年5月に新型コロナは5類感染症に引き下げられ行動制限も緩和されました。コロナ禍で延期・中止・縮小されてきた学校行事や部活動は、今や平常通りに行われ、学校生活の楽しみが戻ってきました。しかし3年前までの学校教育活動を見直しつつ、3年前に戻るのではなく「故きを温ねて新しきを知る」という言葉のように、今までの良いところは残しながら、家庭・地域・学校が同じ方向を見据えて、新しい学校を共に築いていけたらと思っております。今後ともご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

